



ADRC Highlights

Vol.89

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

March 16, 2004

➤ イラン政府・UNDP 共催によるバム復興ワークショップに ADRC が参加・発表

イラン政府 住宅・都市開発省と UNDP の共催による「バムの復興：過去の復興計画から学ぶ」と題した専門ワークショップが、2004年2月25～26日にイランのテヘランにおいて開催され、インド、日本、トルコおよびイランからの代表者がこのワークショップに参加しました。



2003年12月26日、マグニチュード 6.5の地震がイランのバム市およびその周辺を襲い、3万人を超える死者と約 85%の住宅、商業施設、厚生施設、行政施設を破壊しました。この大災害からの復興計画の開始に伴い、種々の複雑な問題点が明らかになってきました。これを受けて、近年大地震による被害を経験した国々からの教訓を学び、バムの地震後復興戦略および計画策定への参考とするため、ワークショップが開催されました。アジア防災センターは、1995年の阪神・淡路大震災を踏まえた日本の地震防災の進歩を紹介するために専門家の派遣を依頼されました。日本からの派遣チームは、他に兵庫県、神戸市、人と防災未来センターから各一名で構成されました。

当センターからは栗田主任研究員が参加し、「重要インフラの復旧とより高度な安全基準の推進」のセッションで、「神戸地震後のインフラの設計基準の向上」と題して講演をおこないました。また、ワーキング・セッションでは活発な議論が交わされ、復興への意見交換が相次ぎました。本件に関する詳細な情報につきましては、栗田主任研究員 (kurita@adrc.or.jp) までお問い合わせください。

➤ ADRCがバンコクでの第3回WSSIワークショップに参加

2003年12月7日から8日にかけて、タイのバンコクで WSSI (World Seismic Safety Initiative) のワークショップが開催され、アジア防災センターが参加しました。

WSSI は、国連の IDNDR (International Decade of Natural Disaster Reduction) プロジェクトの精神、目的を普及促進するために、IAEE (International Association of Earthquake Engineering) の下部実行組織として 1992年に設立されました。震災対策の戦略の見直しを行う各国を支援する触媒的な役割として活動を行っています。

WSSI 設立から 10 年が経過した現在、災害の状況を見れば、

被害は減っているところか、災害の数や被災者数、被害額は増加傾向にあります。そこで、今回の会議では、なぜこのような現象になっているかを検証し、今後の活動に役立てようと、WSSI が活動を行っている国や関係機関を招いて討論しました。

会議では、インド、インドネシア、ウガンダ、カザフスタン、タイ、台湾、タジキスタン、ネパール、バングラデッシュ、パキスタン、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、ロシアなどで行われている地震防災活動についての発表がありました。また、JICA や OYO International、PCI (パシフィックコンサルタンツ)、日本工営など地震防災プロジェクトを行った日本の機関、企業からの報告もありました。ADRC からは、角崎主任研究員と石井主任研究員が出席し、角崎主任研究員が WSSI の今後の活動に対する意見を発表しました。

➤ 国際防災オープンフォーラムが3月23日 国連大学にて開催

このたび、アジア防災センターは、国連大学および内閣府、国連国際防災戦略 (ISDR) 事務局との共催により、また日本放送協会 (NHK) の後援により、国際防災オープンフォーラム「思わぬ災害に備えよう：巨大都市の異常洪水～「世界水の日」(3月22日)と「世界気象の日」(3月23日)に考える～」を3月23日(火)14～17時半、東京の国連大学にて開催します。



このフォーラムは、2005年1月に兵庫県神戸市で開催される「国連防災世界会議」へ向けて、国際防災協力の必要性について関心を高めるために開催するもので、参加費は無料、どなたでも参加できます。

講師は、守田優 (芝浦工業大学教授)、山本孝二 (前気象庁長官)、戸田圭一 (京都大学防災研究所教授)、Lorna P. Victoria (フィリピン災害予防センター長) で、それぞれの専門分野である「過去の教訓」「気象変動」「都市化による流水流域の変化」「コミュニティの役割」などを切り口として、突発的な洪水など水害からいかに守るのかについてわかりやすくお話いただきます。参加希望者は、氏名・職業・住所・電話/FAX 番号を egforum@hq.unu.edu へてに送信してください。フォーラム終了後のレセプションとあわせて、みなさまのご参加をお待ちしています。